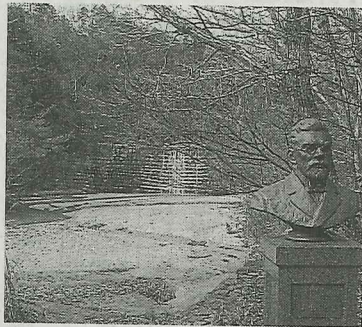


【第三種郵便物認可】

# 関西View

## 軌跡

### 滋賀・田上山 森林再生の100年 ③



オランダ堰堤とデ・レーケ像 (大津市)

草津川を上流へ向かうと、国有林の一丈野地区の入り口にたどり着く。せせらぎに沿って約1キロ奥に、石を積み上げた古めかしい砂防ダムが突然現れる。割って形を整えた石を積み上げる工法では日本最古といわれる「オランダ堰(えん)堤」だ。

高さは約7メートル。緩やかに弧を描き、上流側は土砂が満杯だ。ドイツに留学した内務省の土木技師、田辺義三郎が設計し1889年(明治22年)に完成させた。100年を過ぎてなお、しっかりと役割を果たしている。

ダムを望む正面に銅像が建

### ダム、オランダ技師と共に

つ。ヨハネス・デ・レーケ像だ。明治政府は港や堤防を整備する際、近代的な土木技術を学ぼうとオランダから専門家を多数招いた。1873年(明治6年)、31歳で大阪に到着したのがデ・レーケだ。月給は300円。大阪府内の小学校長の月給が当時22〜35円といわれ、破格の待遇だった。

デ・レーケは大阪港の改築工事に着手。淀川にたまる土砂の多さに驚き、発生源の田上山一帯を調べた。田辺はデ・レーケの指導を受けてこの砂防ダムを建設したといわれ、そのため名称がオランダ堰堤となり銅像が建った。

田上山の砂防事業に詳しい竹林征三・風土工学デザイン研究所理事長は「石積みのでき場は京都府の土木技師、市川義方が先に造った。急流のないオランダから来たデ・レーケはそれをまねたのではないかと推測する。デ・レーケだけを称賛する昨今の風潮にちょっと不満だ。

# 日本経済新聞

夕刊  
2月5日  
(水曜日)

発行所 日本経済新聞社  
 東京本社 ☎(03)3270-0251  
 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
 大阪本社 ☎(06)6943-7111  
 名古屋支社 ☎(052)243-3311  
 西部支社 ☎(092)473-3300  
 電子版アドレス  
<http://www.nikkei.com/>  
 購読のお申し込み  
 ☎0120-21-4946  
<http://www.nikkei4946.com>

第45973号